

魅力発信 努力実った



全国の北前船寄港地から約250人が出席し、日本遺産認定を祝った
＝酒田市・ガーデンパレスみずほ

日本遺産・喜びの声

酒田次は世界遺産へ

酒田市の7道県11市町で申請した北前船寄港地と、鶴岡市のサムライゆかりのシルクが文化庁の日本遺産に認定されたことを受け、それぞれの地域で喜びの声が上がった。

酒田市のガーデンパレス 北前船寄港地日本遺産登録みずほでは、全国から寄港地推進協議会長の丸山至酒田の関係者ら約250人が市長が、受け取ったばかりの認定証を掲げて会場入り

すると、出席者から大きな拍手が湧き起こった。寄港地交流は、2006年に酒田市内で開催された「北前船コールドール回廊」が始まりだった。

経済や文化が東京に「極集

濟界の関係者が参加して中する一方で地方都市が疲弊していく中、北前船でもたらされた繁栄の歴史に光を当て、再び日本海側を活性化させようと、新田嘉一平田牧場会長と石川好(よしみ)元秋田公立美術短期大学長が提唱。07年に短期大学長が提唱。07年に私の提案に、驚くほど多くは全国の寄港地、行政、経路の方が賛同してくれた。次策を検討していく。

鶴岡 保存継承に一丸

3度目の申請で日本遺産認定を手にした鶴岡市の絹文化。松ヶ岡開墾場を中心に点在する文化財を物語でつないでおり、外国人も引きつける魅力があると評価された。地元住民や関係者が一丸となり、歴史や伝統の保存継承に取り組んできた努力がようやく実った。

国的に認知されてうれし「い」と喜んだ。絹文化を学び、ドレス製作などに取り組む鶴岡中央高シルクカールズの3年高村里紗代表(18)は「シルクは布の優しい風合いが良く、今年は草木染に挑戦しており、新たな魅力を引き出したい」と語った。「産地として大きなインパクトになる。鶴岡産シルクのブランド価値も上がるはず」と氏家昇一鶴岡織物工業協同組理事長(70)。

旧庄内藩酒井家18代当主の酒井忠久致道博物館長(71)は「関係者の頑張り認められた。松ヶ岡地区は柿や桃などを栽培しており、食と歴史、シルクを発信する拠点にしたい」と話した。山田鉄哉松ヶ岡開墾場理事長(70)は「壺室は相当古く、修復してもすぐに別の箇所が壊れるなど苦労しながら維持してきた。全

は世界遺産を目指さ」とあいさつ。来賓らが「10年を超えるフォーラムの活動が認定につながった」と祝辞を述べた。今後は各寄港地がそれぞれの魅力を発信しながら、共同でのホームページの作成、誘客事業など、活性化策を検討していく。